

福島県農林水産部工事監督員執務要綱の運用

(目的)

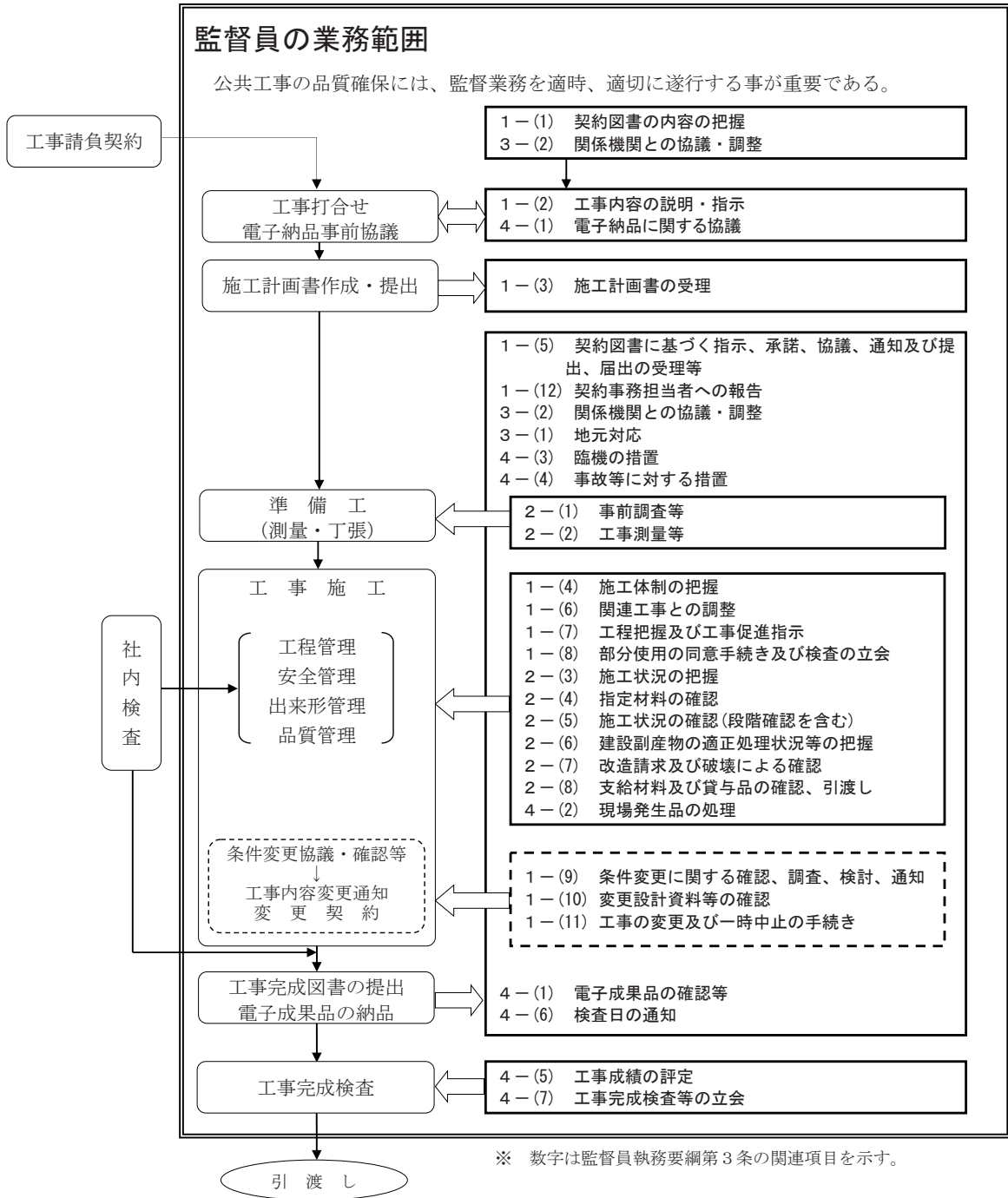
福島県農林水産部工事監督員執務要綱に定める監督の実施にあたり、実務に関する統一的な運用を確保するために、工事施工状況の把握、確認を行う際の留意事項などを示すものとする。

(目次)

(1) 監督員の業務範囲	1
(2) 工事打合せ時の留意事項	2
(3) 施工計画書の留意事項	4
(4) 工事測量の留意事項	9
(5) 段階確認について	10
段階確認一覧	10
(参考) 重点監督	19
(6) 段階確認の留意事項	20
・ 指定仮設工	20
・ 海岸土工・山地治山土工・道路土工・水路土工・ため池等堤体土工(掘削工)	20
・ ため池等堤体土工(掘削工)	20
・ 海岸土工・山地治山土工・ため池等堤体土工(盛土工)、道路土工(路体盛土工)	20
・ 道路土工(路床盛土工)	20
・ 舗装工(路盤、表層、基層)	21
・ 表層安定処理工(置換)	22
・ 矢板工(鋼矢板) 仮設を除く	22
・ 矢板工(鋼管矢板) 仮設を除く	22
・ 既製杭工(既製コンクリート杭、鋼管杭、H鋼杭)	23
・ 場所打杭工(リバーズ杭、オールケーシング杭、アースドリル杭、大口径杭)	24
・ 深礎工	25
・ 置換工(重要構造物)	25
・ 築堤・護岸工(法線)	26
・ 治山ダム(法線)	26

・ 護岸工（基礎工、根固工、水制工）	2 6
・ 重要構造物（函渠工（桶門・桶管を含む）、橋脚フーチング工、RC擁壁、治山ダム、流路工、地すべり防止工（土留工）、堰本体工、排水機場本体工、水門工、集落排水処理場本体工、現場打水路構造物工、ため池取水工、ため池洪水吐工）	2 7
・ 重要構造物（躯体工（橋台）、RC躯体工（橋脚））	2 8
・ 床版工	2 9
・ 鋼橋	2 9
・ ポストテンションT（I）桁製作工、プレキャストブロック桁組立工、プレビーム桁製作工、PCホロースラブ桁製作工、PC版桁製作工、PC箱桁製作工、PC片持箱桁製作工、PC押出し箱桁製作工、床版・横組工	3 0
・ 塗装工	3 0
・ トンネル支保工	3 1
・ トンネル掘削工	3 1
・ トンネル覆工	3 1
・ トンネルインバート工	3 2
・ ほ場整備工	3 2
・ 管路工、集落排水管渠工	3 3
・ 推進工	3 3
（7）工事打合せ簿及び確認書の取扱いについて	3 4
（8）「ワンデーレスポンス」とは	3 8
確認書（第8号様式その1）	3 9
工事打合せ簿（第10号様式）	4 0
設計図書審査書（参考様式）	4 1

(1) 監督員の業務範囲



(2) 工事打合せ時の留意事項

監督員は、受注者に対し、工事契約後速やかに当該工事の目的、内容を正確に説明し、工事が所期の目的に従って施工されるために必要な指示及び施工中における紛争防止、労働・公衆災害の防止等についての適切な指示を行う。

また、契約後に関係機関との協議・調整により施工条件が変わった場合にも、その内容について請負者と協議し、適切な指示を行わなければならない。

打合せ事項	方法	打合せ内容	備考
施工条件	指示 (協議)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 工事の基準類 2. 設計条件 3. 用地問題等がないか 4. 用地買収時の条件、地元の要望等 5. 交通規制の有無 6. 交通整理員の配置位置 7. 施工時間の制約 8. 鉄道近接工事等の制約条件 9. 工事区間内の支障物件 (ガス、水道、ケーブル、電柱類、消火栓、マンホール等) 10. 防護施設、保安施設 11. 関連する他工事との調整 12. ユニバーサルデザインの留意事項 13. その他必要事項 	<p>○打合せ結果による指示事項は工事打合せ簿により指示する。</p> <p>○警察協議により交通整理員の配置人数、施工時間が設計図書と変更になった場合の指示</p> <p>○三者会議の実施</p>
立会・確認	指示	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施工基準点の確認 2. 工事測量・丁張の確認 3. 工事材料の確認・試験方法 4. 立会を要する施工段階（段階確認を含む）の確認時期 	<p>○確認時期は施工計画書に盛り込む</p>

打合せ事項	方法	打合せ内容	備 考
電子納品	協議	1. 電子納品の実施の有無 2. 電子成果品の対象書類等 3. 情報共有システムの活用について 4. その他必要事項	○発注者から提供するデータ（発注図CADデータ、工事管理ファイル等）の準備
電子検査	協議	1. 電子検査の実施の有無 2. その他必要事項	

(3) 施工計画書の留意事項

受注者から提出された施工計画書を審査し、概要を把握する。特に重点監督を要する工事については、担当監督員単独ではなく、担当課長等を含めて複数で把握する。

また、工事着手後に施工計画書の内容に変更があった場合は、受注者から提出される変更に係る頁をその都度更新し、適切に管理する。

確認事項	方法	確認内容	備考
工事概要	審査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 数量等工事内容は設計図書と合致しているか。 2. 主体工事は何かを明記しているか。 	
実施工程表	審査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 契約工期と合致しているか。 2. 各工種毎の工期設定は妥当か。(施工量、施工時期(気温)、他工事との調整等) 3. 全体工程と詳細工程の検討はなされているか。 4. 休日(不稼働日)の設定は適切か。 5. 工程表の様式は適切か。(バーチャート、ネットワーク等) 6. 材料確認・段階確認等の立会時期を記入しているか。 	<p>○気象条件を考慮しているか。</p> <p>○作業員の休日は確保されているか。</p>
現場組織表 (工場組織表)	審査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主任技術者、管理技術者の資格は適正か。 2. 社内検査員等の資格は適正か。 3. 担当する職務が記載されているか。 4. 現場における担当責任者まで記入されているか。 	○建設業法上の資格要件

確認事項	方法	確認内容	備考
安全管理	審査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 工種別の重点管理目標と事故対策は妥当か。 2. 安全管理組織は確立されているか。 3. 選任すべき作業主任者は確保されているか。 4. 安全活動、現場パトロール等の実施計画があるか。 5. 現場保安施設計画は適正か。 6. 火薬類の使用計画書は適切か。 7. その他の危険物、火気を使用する場合の取扱いは適切か。 	<p>○火薬類取扱保安責任者、監視方法、保管方法等。</p>
主要機械	審査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 工種毎に機械の能力等は妥当か。 2. 機械毎の使用期間は工程表と合致しているか。 3. 設計図書に示す排ガス対策型建設機械、低騒音型・低振動型建設機械の記載があるか。 	
主要資材	審査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 工事材料が設計図書に適合しているか。 2. 搬入経路、搬入時期、荷卸し場所等は適切か。 3. レディーミクストコンクリートの J I S マーク表示認定工場、J I S マーク表示認証工場の工場名を記載しているか。 4. コンクリート二次製品で土木部の認定製品を使用する場合の工場名を記載しているか。 5. 各資材の産地と購入先が記載されているか。 6. 監督員の確認を要するとした材料について、確認に関する記載があるか。 	<p>○仕様書及び監督員が指示した材料。</p>

確認事項	方法	確認内容	備考
施工方法	審査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 工事目的をよく理解し、注意を払うべき施工の要点を押さえた内容になっているか。 2. 設計条件に対する検討がなされているか。 3. 資材置場、仮設備計画（能力、容量等）は適切か。 4. 仮設物等は必要に応じて応力計算がなされ安全が確認されているか。 5. 施工順序は妥当か。 6. 施工方法が現場条件にあった具体的な内容で記載されているか。 7. 監督員が立ち会うとした施工段階の時期、方法等の記載があるか。 8. 気象条件を考慮した施工内容になっているか。（コンクリートの養生日数、舗設温度等） 9. コンクリートの打設高等、仕様書で義務づけられた内容の記載があるか。 10. 仕様書で規定する内容に反したものがいないか。 11. 協議・承諾の必要なものは検討されているか。 	<p>○仕様書及び監督員が指示した施工段階。</p>
施工管理計画	審査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施工管理基準に基づいて記入され、各工種一覧表になっているか。 2. 施工管理基準にないものの基準設定（適用工種等）は妥当か。 3. 工事写真の撮影計画は写真管理基準に合っているか。 4. 社内検査の計画は妥当か。 	<p>○不可視となる出来型部分</p>

確認事項	方法	確認内容	備考
緊急時の体制	審査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害発生時、異常気象時、現場内事故発生時の緊急体制が整っているか。 2. 緊急時連絡系統図が作成されているか。 3. 請負者、発注者の夜間・休日の緊急連絡先が記載されているか。 	
交通管理	審査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 交通規制、作業時間帯は指示のとおりであるか。 2. 交通誘導員は施工段階に応じて適切に配置されているか。 3. 指定道路では交通誘導員Aが配置されているか。 4. 交通誘導員の資格は適正か。 5. 現道上の交通の切替え施工の方法等が適切か。 6. 交通誘導のための保安施設は施工段階毎に適切な設置計画となっているか。 7. ダンプトラックの過積載防止のための対策があるか。 	<p>○警察協議による作業時間帯の規制等</p> <p>○交通誘導員Aの配置人数は1名以上又は警察署の指示による</p> <p>○交通管理図が作成されているか</p>
環境対策	審査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現場での第三者対策と工事公害対策は十分か。 	
現場作業環境の整備	審査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業員のための良好な作業環境が確保されているか。 2. 工事用地内のイメージアップに関する記載があるか。 	
再生資源の利用の促進、建設副産物の適正処理方法	審査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再生資源利用計画書、再生資源利用促進計画書が提出されているか。 2. 産業廃棄物処理場が記載され、適正に処理されるか。 	○産業廃棄物処理場の記載

確認事項	方法	確認内容	備考
UD指針に基づき実施する項目・内容	審査	1. ふくしま公共施設等ユニバーサルデザイン指針に基づき、実施する項目、配慮する内容等を検討しているか。	
その他		1. 工事打合せ時の指示内容が反映されているか。 2. 施工計画書の内容を審査し、不備のある場合は訂正を指示し、再提出を求める。 3. 工事着手後に変更のあった内容はその都度更新し、常に現場と合致した内容であること。	

(4) 工事測量の留意事項

受注者が設計図書に基づいて設置した丁張及び中心線、縦断、横断、用地境界、基準高等について立会により確認する。

確認事項	方法	確認内容	備考
仮BM	立会	1. 基準水準点の高さ 2. 仮BMの高さ、箇所数、適正配置 3. 仮BMの保護状況は適切か	○平面・縦断図との確認
中心線 (法線)	立会	1. 位置（法線のとおり）の確認 2. 控杭の設置	
縦・横断	審査 (立会)	1. 測量成果と設計図との対比 (条件変更の有無) 2. 買収用地等の杭の確認	
丁張	立会	1. 丁張の基準高、位置 2. 用地幅杭との関連 3. 用排水路系統計画と現地の整合 4. 隣接地の出入り及び取付道路の取り合い	○必要に応じ地権者等の立会確認 ○位置、高さ

(5) 段階確認について

段階確認とは、共通仕様書の段階確認一覧に示す工種別に、その「確認時期」に受注者から提出される確認・立会願を受け、監督員が原則臨場により「確認項目」にある内容及び「確認の頻度」で確認することをいう。また、重点監督を要する工事では、担当監督員の他に担当課長等を含め複数で確認する。

段階確認一覧

一般：一般監督 重点：重点監督

種別	細別	確認時期	確認項目	確認の頻度
指定仮設工		設置完了時	使用材料、高さ、幅、長さ、深さ等	1回／1工事
海岸土工 山地治山土工 道路土工 水路土工 ため池等堤体土工 (掘削工)		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回／土(岩)質の変化毎
ため池等堤体土工 (掘削工)		掘削完了時	雑物確認	1回／1工事
海岸土工 山地治山土工 道路土工 ため池等堤体土工 (盛土工)		敷均し、転圧時	使用材料、敷均し・締固め状況	(一般) 1回／1工事 (重点) 2～3回／1工事
道路土工 (路床盛土工)		プルーフローリング実施時	プルーフローリング実施状況	1回／1工事
舗装工	下層路盤	プルーフローリング実施時	プルーフローリング実施状況	1回／1工事
	下層路盤 (上層路盤の施工がある場合)	施工完了時	基準高、幅、厚さ	(一般) 1回／1工事 (重点) 1回／100m

種 別	細 別	確認時期	確認項目	確認の頻度
舗装工	路盤、表層、 基層	舗設時	使用材料、敷 均し締固め状 況、天候、気 温、舗設温度	(一般) 1回／1工事 (重点) 1回／3,000m ²
表層安定処理 工	置換	掘削完了時	使用材料、 幅、延長、置 換厚さ	(一般) 1回／1工事 (重点) 1回／100m
矢板工 (仮設を除く)	鋼矢板	打込時	使用材料、長 さ、溶接部の 適否	試験矢板＋ (一般) 1回／150枚
		打込完了時	基準高、変位	(重点) 1回／100枚
	鋼管矢板	打込時	使用材料、長 さ、溶接部の 適否	試験矢板＋ (一般) 1回／75枚
		打込完了時	基準高、変位	(重点) 1回／50枚
既製杭工	既製コンク リート杭 鋼管杭 H鋼杭	打込時	使用材料、長 さ、溶接部の 適否、杭の支 持力	試験杭＋ (一般) 1回／10本
		打込完了時 (打込杭)	基準高、偏心 量	(重点) 1回／5本
		掘削完了時 (中掘杭)	掘削長さ、杭 の先端土質	
		施工完了時 (中掘杭)	基準高、偏心 量	
		杭頭処理完 了時	杭頭処理状況	(一般) 1回／10本 (重点) 1回／5本

種 別	細 別	確認時期	確認項目	確認の頻度
場所打杭	リバース杭 オールケー シング杭 アースドリ ル杭 大口径杭	掘削完了時	掘削長さ、支 持地盤	試験杭＋ (一般) 1回／10本 (重点) 1回／5本
		鉄筋組立完 了時	使用材料、設 計図書との対 比	(一般) 30% 程度／1構造物 (重点) 60% 程度／1構造物
		コンクリー ト打設時	品質規格、運 搬時間、打設 順序、天候、 気温	(一般) 1回／1構造物 (重点) 1回／1ロット
		施工完了時	基準高、偏心 量、杭径	試験杭＋ (一般) 1回／10本 杭径は写真で全 数 (重点) 1回／5本 杭径は写真で全 数
		杭頭処理完 了時	杭頭処理状況	(一般) 1回／10本 (重点) 1回／5本

種 別	細 別	確認時期	確認項目	確認の頻度
深礎工		土（岩）質 の変化した 時	土（岩）質、 変化位置	1回／土（岩） 質の変化毎
		掘削完了時	長さ、支持地 盤	（一般） 1回／3本 （重点）全数
		鉄筋組立完 了時	使用材料、設 計図書との対 比	1回／1本
		コンクリー ト打設時	品質規格、運 搬時間、打設 順序、天候、 気温	（一般） 1回／1構造物 （重点） 1回／1ロット
		施工完了時	基準高、偏心 量、径	（一般） 1回／3本 （重点）全数
		グラウト注 入時	使用材料、使 用量	（一般） 1回／3本 （重点）全数
置換工 （重要構造物）		掘削完了時	使用材料、幅、 延長、置換厚 さ、支持地盤	1回／1構造物
築堤・護岸工		法線設置完 了時	法線設置状況	1回／1法線
治山ダム		法線設置完 了時	法線設置状況	1回／1法線
護岸工	基礎工、根 固工、水制 工	設置完了時	設計図書との 対比（不可視 部分の出来 形）	1回／1工事

種 別	細 別	確認時期	確認項目	確認の頻度
重要構造物 函渠工（樋門・樋管を含む） 躯体工（橋台） RC躯体工（橋脚） 橋脚フーチング工 RC擁壁 治山ダム 流路工 地すべり防止工（土留工） 堰本体工 排水機場本体工 水門工 集落排水処理場本体工 現場打水路構造物 ため池取水工 ため池洪水吐工	学識経験者（専門家）の助言を受けた場合はその内容に基づき決定	土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	1回／土（岩）質の変化毎
床堀掘削完了時		支持地盤（直接基礎）	1回／1構造物	
鉄筋組立完了時		使用材料、設計図書との対比	（一般）30％程度／1構造物 （重点）60％程度／1構造物	
コンクリート打設時		品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	（一般）1回／1構造物 （重点）1回／1ロット	
埋戻し前	設計図書との対比（不可視部分の出来形）	1回／1構造物		
躯体工（橋台） RC躯体工（橋脚）		沓座の位置決定時	沓座の位置	1回／1構造物
床版工		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	（一般）30％程度／1構造物 （重点）60％程度／1構造物
		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	（一般）1回／1構造物 （重点）1回／1ロット

種 別	細 別	確認時期	確認項目	確認の頻度
鋼橋		仮組立て完了時（仮組立が省略となる場合を除く）	キャンバー、寸法等	（一般）－ （重点） 1回／1構造物
ポストテンション T (I) 桁製作工 プレキャストブロック桁組立工 プレビーム桁製作工 P C ホロースラブ桁製作工 P C 版桁製作工 P C 箱桁製作工 P C 片持箱桁製作工 P C 押出し箱桁製作工 床版・横組工		プレストレス導入完了時 横締め作業完了時	設計図書との対比	（一般） 5 % 程度／総ケーブル数 （重点） 10 % 程度／総ケーブル数
		プレストレス導入完了時 縦締め作業完了時	設計図書との対比	（一般） 10 % 程度／総ケーブル数 （重点） 20 % 程度／総ケーブル数
		P C 鋼線・鉄筋組立完了時（工場製作を除く）	使用材料、設計図書との対比	（一般）30 % 程度／1構造物 （重点）60 % 程度／1構造物
		コンクリート打設時（工場製作を除く）	品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	（一般） 1回／1構造物 （重点） 1回／1ロット
トンネル掘削工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回／土(岩)質の変化毎

種 別	細 別	確認時期	確認項目	確認の頻度
トンネル支保工		施工時（支保工変更毎）	施工状況	（一般） 1回／支保工変更毎 （重点） 1回／支保工変更毎ただし最低10支保工毎 ※重点監督は地山等級がD，Eのもの
		支保工完了時（支保工変更毎）	吹き付けコンクリート厚、ロックボルト打ち込み本数及び長さ	1回／支保工変更毎
トンネル覆工		コンクリート打設前	巻立空間	（一般） 1回／構造の変化毎 （重点） 3打設毎又は1回／構造の変化毎の頻度の多い方 ※重点監督は地山等級がD，Eのもの
		コンクリート打設後	出来形寸法	1回／200m
トンネルインバート工		鉄筋組立完了時	設計図書との対比	1回／構造の変化毎

種 別	細 別	確認時期	確認項目	確認の頻度
塗装工		清掃、錆落とし施工時	清掃、錆落とし状況	1回 / 1工事
		施工時	使用材料、天候、気温	1回 / 1工事
ほ場整備工		地割が完了した時	法線及び長さ	1回 / 地割完了時
		基盤整地仕上げ完了時	均平度	1回 / 5枚
		用水路施工時	布設勾配	1回 / 幹・支線 1回 / 小用水路
		排水路施工時	布設勾配	1回 / 幹・支線 1回 / 小排水路
		暗渠排水施工時	掘削深、勾配及び被覆材	1本 / 5枚
		客土及び耕土搬入施工時	土質及び用土量の確認	1回 / 5枚
		支線道路、溝畔、畦畔の転圧時	敷均し、締固め、削取仕上げ状況	1回 / 1工種
管路工 集落排水管渠工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回 / 土(岩)質の変化毎
		掘削完了時	基礎地盤の状態	1回 / 1,000 m
		基礎敷均し、締固め時	使用材料、敷均し・締固め状況	1回 / 1,000 m
		布設・接合施工時	布設・接合状況	1回 / 1,000 m
		埋戻し、締固め時	使用材料、敷均し・締固め状況、土留の引抜状況	1回 / 1,000 m

種 別	細 別	確認時期	確認項目	確認の頻度
推進工		刃口及び推進機械の製作が完了した時	外観、形状、寸法	1回／1工事
		推進設備完了時	高さ、方向、姿勢	1回／1工事
		滑材注入時	注入圧、注入量	1回／1工事
		裏込注入時	注入圧、注入量	1回／1工事
ダム工	各工事毎に特記仕様書で定める			
水産土木	水産庁〔漁港漁場関係工事共通仕様書〕で定めた基準による			

- 注) 1 表中の「確認の頻度」は、最小限の目安であり、実施にあたっては工事内容および施工状況等を勘案のうえ、設定することとする。
- 2 1ロットとは、橋台等の単体構造物はコンクリート打設毎、函渠等の連続構造物は施工単位（目地）毎とする。
- 3 一般監督：重点監督以外の工事
- 4 重点監督：下記の工事
- (1) 主たる工種に新工法・新材料を採用した工事
 - (2) 施工条件が厳しい工事
 - (3) 第三者に対する影響のある又は及ぼす可能性のある工事
 - (4) その他

(参考)

重点監督

主たる工種に新工法・新材料を採用した工事、施工条件が厳しい工事、第三者に対する影響のある又は及ぼす可能性のある工事、低入札工事、その他上記に類する工事については、確認の頻度を増やすとともに、確認等をする人数を複数にすることとし、工事の重要度に応じた監督とする（重点監督という。）

なお、対象工事は下記の（１）～（４）のとおりとし、重点監督の適用については、所長又は業務担当部長（又は副部長並びに特設所長。本庁で監督業務を行う場合は、担当課長又は主幹）が判断し、起工決裁時に添付する設計図書審査書により担当課長（本庁で監督業務を行う場合は、担当主任主査等）及び監督員に指示するものとする。

（１）主たる工種に新工法・新材料を採用した工事

- ・ V E 提案を採用した工事

（２）施工条件が厳しい工事

- ・ 鉄道又は現道上及び、最大支間長 1 0 0 m 以上の橋梁工事
- ・ 掘削深さ 7 m 以上の土留工及び締切工を有する工事
- ・ 鉄道・道路等の重要構造物の近接工事
- ・ 治山ダム（堤体高 3 0 m 以上）
- ・ 軟弱地盤上での構造物
- ・ 場所打ち P C 橋
- ・ ハイピア（躯体高 3 0 m 以上）

（３）第三者に対する影響のある又は及ぼす可能性のある工事

- ・ 周辺地域等へ地盤変動等の影響が予想される掘削を伴う工事
- ・ 一般交通に供する路面覆工・仮橋等を有する工事
- ・ 河川堤防と同等の機能の仮締切を有する工事
- ・ 供用中の道路、鉄道等の上空において作業する工事

（４）その他

- ・ 低入札価格調査制度調査対象工事
- ・ 事務所長（本庁で監督業務を行う場合は、担当課長）が必要と認めた工事

(6) 段階確認の留意事項

指定仮設工

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
設置完了時	使用材料、高さ、幅、長さ、深さ等	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・高さ、幅、長さ、深さ等が規格値以内であるか確認する。 ・吊り足場等の吊り間隔が適切であるか確認する。 	1回／1工事

海岸土工・山地治山土工・道路土工・水路土工・ため池等堤体土工（掘削工）

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	<ul style="list-style-type: none"> ・土質及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。 	1回／土（岩）質の変化毎

ため池等堤体土工（掘削工）

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
掘削完了時	雑物確認	<ul style="list-style-type: none"> ・旧構造物等の雑物を除去してあるか確認する。 	1回／1工事

海岸土工・山地治山土工・ため池等堤体土工（盛土工）、道路土工（路体盛土工）

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
敷均し、転圧時	使用材料、敷均し・締固め状況	<ul style="list-style-type: none"> ・土の敷均し及び締固めについて、使用材料、敷均し厚・方向、施工機種等について確認する。 ※築堤・路体の1層仕上がり厚30cm以下。 ※土羽部を本体と同一材料で施工している場合は削取仕上げの実施について確認する。 	（一般） 1回／1工事 （重点）2～3回／1工事

道路土工（路床盛土工）

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
敷均し、転圧時	使用材料、敷均し・締固め状況	<ul style="list-style-type: none"> ・土の敷均し及び締固めについて、使用材料、敷均し厚・方向、施工機種等について確認する。 ※1層仕上がり厚20cm以下。 ※土羽部を本体と同一材料で施工している場合は削取仕上げの実施について確認する。 	（一般） 1回／1工事 （重点）2～3回／1工事
プルーフローリング実施時	プルーフローリング実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・路床盛土仕上げ後、路床全体にわたってのプルーフローリング実施時に、たわみについて状況を確認する。 	1回／1工事

舗装工（路盤、表層、基層）

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
下層路盤ブルーフローリング実施時	ブルーフローリング実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 下層路盤仕上げ後、路盤全体にわたってのブルーフローリング実施時に、たわみについて状況を確認する。 	1回／1工事
下層路盤施工完了時 (上層路盤の施工がある場合)	基準高、幅、厚さ	<ul style="list-style-type: none"> 不可視部分について、上層路盤施工前に基準高、幅、厚さが規格値以内であるか確認する。 	(一般) 1回／1工事 (重点) 1回／100m
舗設時	使用材料、敷均し締固め状況、天候、気温、舗設温度	<ul style="list-style-type: none"> 材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 下層、上層路盤（粒状路盤） <ul style="list-style-type: none"> 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷均し締固めが行われているか確認する。 ※下層路盤の1層仕上がり厚20cm以下。 ※上層路盤の1層仕上がり厚15cm以下。 (振動ローラを使用する場合は20cm) 下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） <ul style="list-style-type: none"> 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について確認する。 ※下層路盤の1層仕上がり厚30cm以下。 ※上層路盤の1層仕上がり厚20cm以下。 (振動ローラを使用する場合は30cm) アスファルト安定処理、基層、表層 <ul style="list-style-type: none"> プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し締固め状況について確認する。 ※舗設温度110℃以上。 ※気温5℃以下及び降雨時の作業禁止。 コンクリート舗装 <ul style="list-style-type: none"> 目地金物、鉄網の設置及び敷均し締固め状況について確認する。 	(一般) 1回／1工事 (重点) 1回／3,000㎡

表層安定処理工（置換）

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
掘削完了時	使用材料、幅、延長、置換厚さ	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料は品質、形状、寸法、使用法を目視で確認する。 ・幅、長さ及び置換厚さについて確認する。 	(一般) 1回／1工事 (重点) 1回／100m

矢板工（鋼矢板） 仮設を除く

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に板長を測定し、打設長（根入れ長）を求め、設計根入れ長と比較する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透深傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 	試験矢板＋ (一般) 1回／150枚 (重点) 1回／100枚
打込完了時	基準高、変位	<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、変位が規格値以内であるか確認する。 	試験矢板＋ (一般) 1回／150枚 (重点) 1回／100枚

矢板工（鋼管矢板） 仮設を除く

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に板長を測定し、打設長（根入れ長）を求め、設計根入れ長と比較する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透深傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 	試験矢板＋ (一般) 1回／75枚 (重点) 1回／50枚
打込完了時	基準高、変位	<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、変位が規格値以内であるか確認する。 	試験矢板＋ (一般) 1回／75枚 (重点) 1回／50枚

既製杭工（既製コンクリート杭、鋼管杭、H鋼杭）

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を求め、設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透深傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定して設計支持力と比較し確認する。また、基準高、偏心量を確認する。 	試験杭＋ （一般） 1回／10本 （重点） 1回／5本
打込完了時 （打込杭）	基準高、偏心量	<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。 	同上
掘削完了時 （中掘杭）	掘削長さ、杭の先端土質	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削土とボーリング柱状図等を比較し、地層・地質及び杭先端支持地盤を確認する。 	同上
施工完了時 （中掘杭）	基準高、偏心量	<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。 	同上
杭頭処理完了時	杭頭処理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理 について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。 	（一般） 1回／10本 （重点） 1回／5本

場所打杭工（リバース杭、オールケーシング杭、アースドリル杭、大口径杭）

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
掘削完了時	掘削長さ、支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土とボーリング柱状図等を比較し、地層・地質及び杭先端支持地盤を確認する。	試験杭＋ （一般） 1回／10本 （重点） 1回／5本
鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長、結束状況）及びかぶりについて確認する。	（一般）30％ 程度／1構造物 （重要）60％ 程度／1構造物
コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について確認する。 ※スランプ、空気量、塩化物総量の適否。 ※練りまぜから打設完了まで1.5時間以内。 （外気温25℃以下で2時間） ※吐出口と打込み面までの高さ1.5m以下。 ※日平均気温4℃以下：寒中コンクリート。 25℃以上：暑中コンクリート。	（一般） 1回／1構造物 （重点） 1回／1ロット
施工完了時	基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	試験杭＋ （一般） 1回／10本 杭径は写真で全数。 （重点） 1回／5本 杭径は写真で全数。
杭頭処理完了時	杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	（一般） 1回／10本 （重点） 1回／5本

深礎工

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	・土質及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	1回／土（岩）質の変化毎
掘削完了時	長さ、支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土とボーリング柱状図等を比較し、地層・地質及び杭先端支持地盤を確認する。 ・杭の長さを現地で確認する。	（一般） 1回／3本 （重点） 全数
鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長、結束状況）及びかぶりについて確認する。	1回／1本
コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について確認する。 ※スランプ、空気量、塩化物総量の適否。 ※練りまぜから打設完了まで1.5時間以内。 （外気温25℃以下で2時間） ※吐出口と打込み面までの高さ1.5m以下。 ※日平均気温4℃以下：寒中コンクリート。 25℃以上：暑中コンクリート。	（一般） 1回／1構造物 （重点） 1回／1ロット
施工完了時	基準高、偏心量、径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	（一般） 1回／3本 （重点） 全数
グラウト注入時	使用材料、使用量	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・注入モルタルの配合及び記録計等により使用量を確認する。	（一般） 1回／3本 （重点） 全数

置換工（重要構造物）

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
掘削完了時	使用材料、幅、延長、置換厚さ、支持地盤	・使用材料は品質、形状、寸法、使用法を目視で確認する。 ・土の突固め試験（道路の場合はCBR試験も）結果表により材料の確認を行う。 ・幅、長さ及び置換厚さについて確認する。 ・地盤支持力を目視や平板載荷試験等により確認する。	1回／1構造物

築堤・護岸工（法線）

確認時期	確認項目	留 意 事 項	確認の頻度
法線設置完了時	法線設置状況	<ul style="list-style-type: none"> ・法線の設置状況について設計図書と対比し確認する。 ※位置（法線のとおり）の確認。 ※用地幅杭との関係確認。 	1回／1法線

治山ダム（法線）

確認時期	確認項目	留 意 事 項	確認の頻度
法線設置完了時	法線設置状況	<ul style="list-style-type: none"> ・法線の設置状況について設計図書と対比し確認する。 ※位置（法線のとおり）の確認。 ※用地幅杭との関係確認。 	1回／1法線

護岸工（基礎工、根固工、水制工）

確認時期	確認項目	留 意 事 項	確認の頻度
設置完了時	設計図書との対比（不可視部分の出来形）	<ul style="list-style-type: none"> ・不可視部分について、埋戻し前に設計図書と現地で対比し確認する。 ※土木工事施工管理基準及び規格値（共通仕様書第Ⅱ編）の測定項目による。 ※溪間工の護岸工及び根固・水制工については、農林水産土木工事施工管理基準の測定項目による。 	1回／1工事

重要構造物（函渠工（桶門・桶管を含む）、橋脚フーチング工、RC擁壁、治山ダム、流路工、地すべり防止工（土留工）、堰本体工、排水機場本体工、水門工、集落排水処理場本体工、現場打水路構造物工、ため池取水工、ため池洪水吐工）

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	・土質及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	1回／土（岩）質の変化毎
床掘削完了時	支持地盤（直接基礎）	・床掘完了時に、掘削深さ（基準高）と支持地盤の適否を測量及びボーリング柱状図等との比較により確認する。また必要に応じて平板載荷試験等により確認する。	1回／1構造物
鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長、結束状況）及びかぶりについて確認する。	（一般）30％程度／1構造物 （重要）60％程度／1構造物
コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について確認する。 ※スランプ、空気量、塩化物総量の適否。 ※練りまぜから打設完了まで1.5時間以内。 （外気温25℃以下で2時間） ※吐出口と打込み面までの高さ1.5m以下。 ※日平均気温4℃以下：寒中コンクリート。 25℃以上：暑中コンクリート。	（一般） 1回／1構造物 （重点） 1回／1ロット
埋戻し前	設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・不可視部分について、埋戻し前に設計図書と現地で対比し確認する。 ※土木工事施工管理基準及び規格値（共通仕様書第Ⅱ編及び農林水産土木工事施工管理基準）の測定項目による。	1回／1構造物

重要構造物（躯体工（橋台）、RC躯体工（橋脚））

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	・土質及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	1回／土（岩）質の変化毎
床掘掘削完了時	支持地盤（直接基礎）	・床掘完了時に、掘削深さ（基準高）と支持地盤の適否を測量及びボーリング柱状図等との比較により確認する。また必要に応じて平板載荷試験等により確認する。	1回／1構造物
鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長、結束状況）及びかぶりについて確認する。	（一般）30％程度／1構造物 （重要）60％程度／1構造物
コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について確認する。 ※スランプ、空気量、塩化物総量の適否。 ※練りまぜから打設完了まで1.5時間以内。 （外気温25℃以下で2時間） ※吐出口と打込み面までの高さ1.5m以下。 ※日平均気温4℃以下：寒中コンクリート。 25℃以上：暑中コンクリート。	（一般） 1回／1構造物 （重点） 1回／1ロット
埋戻し前	設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・不可視部分について、埋戻し前に設計図書と現地で対比し確認する。 ※基準高、断面形状、径間、支間長及び中心線の変位。	1回／1構造物
沓座の位置決定時	沓座の位置	・前後の下部工沓座との相互関係及び沓座の高さ等について確認する。	1回／1構造物

床版工

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長、結束状況）及びかぶりについて確認する。 	（一般）30％ 程度／1 構造物 （重要）60％ 程度／1 構造物
コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について確認する。 ※スランプ、空気量、塩化物総量の適否。 （道路橋床版の場合、スランプは原則全車測定） ※練りまぜから打設完了まで1.5時間以内。 （外気温25℃以下で2時間） ※吐出口と打込み面までの高さ1.5m以下。 ※日平均気温4℃以下：寒中コンクリート。 25℃以上：暑中コンクリート。 	（一般） 1回／1 構造物 （重点） 1回／1 ロット

鋼橋

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
仮組立て完了時（仮組立が省略となる場合を除く）	キャンバー、寸法等	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンバー、寸法を確認する。 ※仮組立が省略できる場合とは、計算機を用いた仮組立シュミレーションによる部材精度管理や部材仮組立による代替が可能な場合をいう。 以下の1)～3)に示す条件を全て満たす橋梁は、仮組立を省略できる。 1) 鈹桁橋（I形断面）又は箱桁橋であること。 2) 直橋であること。 3) 鈹桁橋では斜角が75°以上、箱桁橋では斜角が90°であること。 	（一般）－ （重要） 1回／1 構造物

ポストテンションT（I）桁製作工、プレキャストブロック桁組立工、プレビーム桁製作工、PCホロースラブ桁製作工、PC版桁製作工、PC箱桁製作工、PC片持箱桁製作工、PC押し箱桁製作工、床版・横組工

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
コンクリート打設時(工場製作を除く)	品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について確認する。 ※スランプ、空気量、塩化物総量の適否。 ※練りまぜから打設完了まで1.5時間以内。 (外気温25℃以下で2時間) ※吐出口と打込み面までの高さ1.5m以下。 ※日平均気温4℃以下：寒中コンクリート。 25℃以上：暑中コンクリート。 	(一般) 1回/1構造物 (重点) 1回/1ロット
プレストレス導入完了時 横締め作業完了時	設計図書との対比	<ul style="list-style-type: none"> ・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する。 	(一般) 5%程度/総ケーブル数 (重要) 10%程度/総ケーブル数
プレストレス導入完了時 縦締め作業完了時	設計図書との対比	<ul style="list-style-type: none"> ・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する。 	(一般) 10%程度/総ケーブル数 (重要) 20%程度/総ケーブル数
PC鋼線・鉄筋組立完了時 (工場製作を除く)	使用材料、設計図書との対比	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法(継手長、結束状況)及びかぶりについて確認する。 	(一般) 30% 程度/1構造物 (重要) 60% 程度/1構造物

塗装工

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
清掃、錆落とし施工時	清掃、錆落とし状況	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃、錆落とし状況を確認する。 ※汚れ、錆の有無。 	1回/1工事
施工時	使用材料、天候、気温	<ul style="list-style-type: none"> ・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温が施工に適しているか確認する。 ※降雨時、強風時、制限された気温・湿度時の作業禁止 	1回/1工事

トンネル支保工

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
施工時（支保工変更毎）	施工状況	<ul style="list-style-type: none"> 設計図書及び施工計画書と現地を対比し、掘削方法、支保工施工方法（吹付、ロックボルト、鋼製支保工）、覆工、インバート等の全般について施工状況を確認する。 	（一般）1回／支保工変更毎 （重点）1回／支保工変更毎ただし最低10支保工毎 ※重点監督は地山等級がD、Eのもの
支保工完了時（支保工変更毎）	吹き付けコンクリート厚、ロックボルト打ち込み本数及び長さ	<ul style="list-style-type: none"> 金網の重ね合わせ寸法、吹き付けコンクリートの厚さを確認する。 ロックボルト打ち込み本数及び長さを確認する。 	1回／支保工変更毎

トンネル掘削工

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	<ul style="list-style-type: none"> 土質及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。 	1回／土（岩）質の変化毎

トンネル覆工

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
コンクリート打設前	巻立空間	<ul style="list-style-type: none"> コンクリート打設前の巻立空間を設計図書と対比する。 ※測定箇所は土木工事施工管理基準及び規格値（共通仕様書第Ⅱ編）の測定基準による。 	（一般）1回／構造の変化毎 （重点）3打設毎又は1回／構造の変化毎の頻度の多い方 ※重点監督は地山等級がD、Eのもの
コンクリート打設後	出来形寸法	<ul style="list-style-type: none"> 巻厚などの寸法を設計図書と対比する。 ※測定項目、測定箇所は土木工事施工管理基準及び規格値（共通仕様書第Ⅱ編）による。 	1回／200m

トンネルインバート工

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
鉄筋組立完了時	設計図書との対比	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長、結束状況）及びかぶりについて確認する。 	1回／構造の変化毎

ほ場整備工

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
地割が完了した時	法線および長さ	・地割結果が設計計画線と合致しているか。	1回／地割完了時
基盤整地仕上げ完了時	均平度	<ul style="list-style-type: none"> ・均平度が規格値を満足しているか確認する。 ・基準均平の中で用水路側から排水路側に低くしているか確認する。 	1回／5枚
用水路施工時	布設勾配	・施工前に布設勾配を確認する。	1回／幹・支線 1回／小用水路
排水路施工時	布設勾配	・施工前に布設勾配を確認する。	1回／幹・支線 1回／小排水路
暗渠排水施工時	掘削深、勾配および被覆材	・施工中に掘削深、勾配、被覆材の投入厚さを確認する。	1本／5枚
客土及び耕土搬入施工時	土質及び用土量の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・客土及び耕土搬入目的を満足する用土を搬入しているか確認する。 ・搬入中もしくは敷均し後に搬入された用土量を確認する。 	1回／5枚
支線道路、溝畔、畦畔の転圧時	敷均し、締固め、削取仕上げ状況	・土の敷均し及び締固めについて、敷均し方向、施工機種等について確認すると共に削取仕上げの実施について確認する。	1回／工種

管路工、集落排水管渠工

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	・土質及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	1回／土（岩）質の変化毎
掘削完了時	基礎地盤の状態	・基礎地盤の状態及び掘削幅員、法勾配について確認する。	1回／1,000 m
基礎敷均し、締固め時	使用材料、敷均し・締固め状況	・土の敷均し及び締固めについて、使用材料、敷均し厚・方向、施工機種等について確認する。	1回／1,000 m
布設・接合施工時	布設・接合状況	・適正な接合が行われているか、人孔との取付部が取合せ良く接合されているか確認する。	1回／1,000 m
埋戻し、締固め時	使用材料、敷均し・締固め状況、土留の引抜状況	・土の敷均し及び締固めについて、使用材料を確認する。 ・管に衝撃を与えないように注意しながら両側均等に偏荷重をかけないように締固めているか、また、管の下側に空隙又は締固め不十分の箇所が無いかを確認する。 ・土留先行工法で施工されているかを確認する。	1回／1,000 m

推進工

確認時期	確認項目	留意事項	確認の頻度
刃口及び推進機械の製作が完了した時	外観、形状、寸法	・承諾図書に基づき外観、形状、主要寸法を確認する。	1回／1 工事
推進設備完了時	高さ、方向、姿勢	・高さ、方向、姿勢が設計図書に基づき備え付けられているか確認する。	1回／1 工事
滑材注入時	注入圧、注入量、注入状況	・注入圧等の施工状況を確認する。	1回／1 工事
裏込注入時	注入圧、注入量、注入状況	・注入圧等の施工状況を確認する。	1回／1 工事

(7) 工事打合せ簿及び確認書の取扱いについて

1 工事打合せ簿

指示、協議、通知、承諾、提出、届出は、約款及び共通仕様書で書面により行うことと規定しており、共通様式として「工事打合せ簿」を使用する。工事打合せ簿に関する発議から保管までの流れは以下のとおり。

また、工事完成検査時には監督員の保管する工事打合せ簿（原本）を検査員に提示するものとする。

(1) 発注者が発議するもの … 指示、協議、通知

- ① 監督員が発議し決裁欄で決裁を受けた原本を受注者に渡す。
- ② 受注者は発議内容に対する処理又は回答を記入し、記名したものを発注者に返却する。受注者は写しを保管し、原本は監督員が保管するものとする。
- ③ 監督員が現場で指示する場合等、急を要するものは、監督員の指示内容とそれに対する現場代理人の回答を記入した工事打合せ簿を2部作成（手書きで2部作成する他、カーボン紙やコピーによる複写も可）し、双方が確認して記名したものをその場で取り交わすこと。また、受注者はその写しを保管し、監督員は原本を持ち帰り決裁を受けたものを保管するものとする。
- ④ 契約の変更に関するものは指示のみで処理できないため、工事内容変更通知と併せて使用すること。

(2) 受注者が発議するもの … 協議、承諾、提出、届出

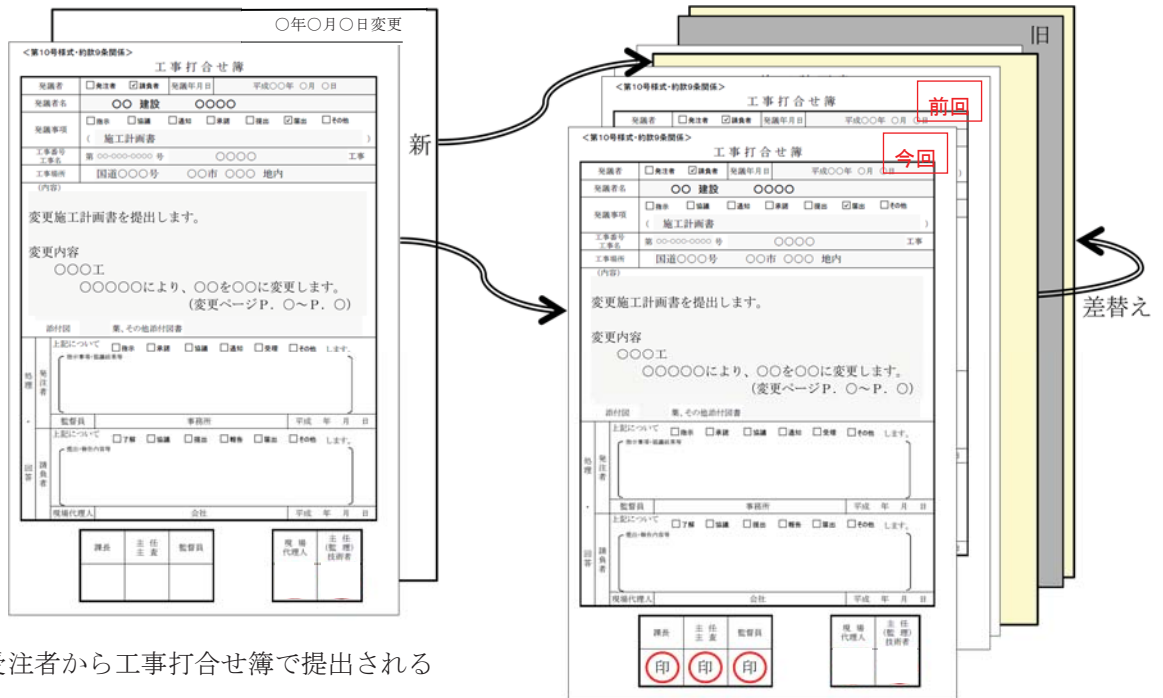
- ① 現場代理人が発議、記名した原本を監督員に渡す。
- ② 監督員は発議内容に対する処理又は回答を記入し、その写しを受注者に渡し、原本は監督員が保管する。事前に決裁が必要なものは速やかに決裁を受け、ワンデーレスポンスに努めること。

(3) 施工計画書及び変更施工計画書

- ① 施工計画書は打合せ簿により受注者から提出される。
- ② 施工計画書の内容について審査し、不備のある場合は訂正を指示し、再提出を求める。
- ③ 施工計画書を受理した場合は、紙ファイル等に綴じて保管する。
- ④ 工事着手後、施工計画書の内容に変更のあった場合、受注者からは変更に係るページのみが打合せ簿で提出される。
- ⑤ 変更になるページは上端に変更年月日を記載する。

- ⑥ 監督員は、先に提出された施工計画書のファイルに変更分を随時追加して決裁を受け、常に現場状況に合致した施工計画書として適切に管理する。（例を参考とする。）
- ⑦ 工事完成検査時には監督員の保管する施工計画書を検査員に提示するものとする。

(例)



監督員が保管する施工計画書に変更分を随時追加する。

※受注者の押印は任意とする。

2 確認書

指定材料の確認・立会、段階確認等の施工状況の確認・立会、施工状況の把握を記録する場合は、共通様式として「確認書」を使用する。確認・立会願の提出から確認・立会い結果書の通知までの流れは以下のとおり。

また、工事完成検査時には監督員の保管する確認書（原本）を検査員に提示するものとする。

(1) 指定材料の確認

- ① 現場代理人は、設計図書において監督員の確認を受けることとしている工事材料の確認・立会願を監督員に提出する。確認・立会願には現場代理人の捺印は要らないものとし、メール等での提出も可とする。
- ② 監督員は、確認の方法、立会いの日時等を現場代理人と調整する。

- ③ 確認の方法は、立会いもしくは関係書類（机上）により、その内容について設計図書との適合を確かめる。
- ④ 確認の結果は、結果判定欄に「合格」又は「不合格」と記入し、不合格の場合は指示事項欄に「工事現場外に搬出すること」等を記入し、完了年月日を指示すること。また、記事欄に確認した品名、材料名を記入する。
- ⑤ 指示事項があった場合は、指示事項に対する処置が完了したことを確認することとし、確認年月日を記入する。
- ⑥ 確認書は、立会者・監督員が記名し決裁を受けた原本を監督員が保管し、その写しを受注者が保管するものとする。

（２）施工状況の確認（段階確認を含む）

- ① 現場代理人は、共通仕様書及び特記仕様書で監督員が確認又は立会うとした施工段階の確認（段階確認を含む）を受ける場合は、確認・立会願を監督員に提出する。確認・立会願には現場代理人の捺印は要らないものとし、メール等での提出も可とする。
- ② 監督員は、確認の方法、立会いの日時等を現場代理人と調整する。
- ③ 確認の方法は、原則立会いとするが、やむを得ず机上となる場合は確認に必要な管理記録、写真等の資料（社内検査結果を含む）の提出を求める。
- ④ 立会いによる確認の場合、確認事項に関する社内検査結果の資料は、立会い当日の提出でよいものとする。
- ⑤ 確認の結果、設計図書と現場の状況が一致している場合は、確認立会結果書の結果判定欄に「確認済」と記入する。また、記事欄には確認した測点番号、範囲等を記入する。
- ⑥ 確認の結果、設計図書と現場の状況が一致していない場合は、その是正を打合せ簿で指示し、確認・立会結果書の指示事項欄にその内容を記録する。
- ⑦ 指示事項があった場合は、指示事項に対する処置が完了したことを確認することとし、確認年月日を記入する。
- ⑧ 確認書は、立会者・監督員が記名し決裁を受けた原本を監督員が保管し、その写しを受注者が保管するものとする。
- ⑨ 工事施工の確認・立会に際して社内検査結果の資料を提出したものについては、工事完成検査時に同じ資料の提出は不要とする。

（３）施工状況把握

- ① 施工状況、使用材料について、監督員が設計図書との適合を自ら認識するため、適宜書類や臨場等により把握し、必要に応じて結果を記録

する。

- ② 受注者からの確認・立会願は必要としない。
- ③ 把握の結果は確認・立会結果書に記載し、記事欄に確認の内容等を記録する。
- ④ 施工状況の把握に関する確認・立会結果書は、受注者への通知は必要としない。
- ⑤ 施工状況の把握において、指示する事項があった場合は、工事打合せ簿により指示するものとする。

3 情報共有システムを活用する場合

情報共有システムを活用する場合は、「福島県における情報共有システムの活用ガイドライン（福島県土木部技術管理課）」により取り扱うものとする。

(8) 「ワンデーレスポンス」とは

工事監督業務のひとつとして、工事請負者から質問・協議があった場合、できる限り「その日のうち」に解決するよう努力し、その日のうちに解決できない場合でも回答日を予告するなど、次の段取りができるような（現場を待たせないように）何らかの回答を「その日のうちに」にするという取組みをいう。また、監督員個々には措置し得ない事項や判断が困難な場合には、上司に相談し組織的に速やかな回答に努める必要がある。

効果

工事現場において発生する諸問題に対し迅速な対応を実現することで、現場での手待ちの減少による効率的（時間的・経済的）な現場施工が可能となり、トラブルの拡大を防ぐことにもつながる。

付則

- 1 この運用は、令和元年7月1日より適用する。

部長・次長	課長	主任主査	監督員

確 認 書

確 認 ・ 立 会 願

年 月 日

下記について確認・立会を願いたい。

請負業者名
現場代理人名

工事名	第	号	工事
工事場所			
事 項		位 置 等	

確 認 ・ 立 会 結 果 書

上記について、確認・立会を実施し確認した。

立会者名

確認・立会年月日	年 月 日
方法	現 地 ・ 書 類 (机上)
結果判定	
指示事項 (記事)	

指示事項等処置完了確認 年 月 日 監督員

設 計 図 書 審 査 書 (案)

		監督員氏名	
工事番号	第 号	事業名	
地区名		工 事 箇 所	

審 査 者	審 査 意 見 及 び 指 示	措 置
所 長		
重点監督指示欄		
担 当 部 長 (又 は 副部長) (又 は 特設所長)		
重点監督指示欄		該当項目()-
担 当 課 長		
担 当 主 任 主 査 (又 は 係 長)		

重点監督適用の対象工事は裏面による。

監督員記入欄	重点監督対象項目	あり・なし
--------	----------	-------

【重点監督適用対象工事】

該当項目に○をつける

(1) 主たる工種に新工法・新材料を採用した工事
1. VE提案を採用した工事
(2) 施工条件が厳しい工事
1. 鉄道又は現道上及び、最大支間長100m以上の橋梁工事 2. 掘削深さ7m以上の土留工及び締切工を有する工事 3. 鉄道・道路等の重要構造物の近接工事 4. 砂防ダム（堤体高30m以上） 5. 軟弱地盤上での構造物 6. 場所打ちPC橋 7. 共同溝工事 8. ハイピア（躯体高30m以上）
(3) 第三者に対する影響のある又は及ぼす可能性のある工事
1. 周辺地域等へ地盤変動等の影響が予想される掘削を伴う工事 2. 一般交通に供する路面覆工・仮橋等を有する工事 3. 河川堤防と同等の機能の仮締切を有する工事 4. 供用中の道路、鉄道等の上空において作業する工事
(4) その他
1. 低入札価格調査制度対象工事 2. 事務所長が必要と認めた工事